

# 組織分科会

議長：阿部 秀晴 (中野)  
// 色摩ひな子 (練馬)  
書記：渡辺 直樹 (練馬)



色摩議長

参加者は代議員40人、代議員以外の参加者22人、来賓3人の合計65人でした。  
冒頭、中村組織部長があいさつし、来賓からあいさつを受けました。中村組織部長、熊切担当専従常任、沼口事業所対策専従常任待遇が分担して議案提案を行ない、各支部の経験と教訓を具体的に示しながら2017年度の経過を報告し、「課題克服を共有しその対策を実践すること」「専門部を横断し、産業課題でも組織化を」「月間目標に団結し、1%実増を」「事業所対策の実践」を重点とした2018年度の方針が提案されました。

議案の補強として、日原大田支部組織部長より「支部版分会経験交流集会で見えてきたこと」、加賀府中国立支部組織部長より「2017年の

## 目標に団結し1%実増 事業所の活性化に議論集中

た。いずれも優れた組織運動の目的と到達が示され、今後の参考となる報告でした。なお質疑・討論の要旨は次のとおりです。調布支部「群会

取り組み、青沼板橋支部組織部長より「事業所の仲間と共に組織強化を」、古谷小金井国分寺支部組織部長より「未加入事業所の安全大会参加と事業所結集の支部経験報告」、土屋葛飾支部組織部長より「分会再編による組織強化と10年ぶりの組織実増」、佐藤豊島支部主任書記より「『群オルク』の取り組み」、以上6支部の経験報告がありました。いずれも優れた組織運動の目的と到達が示され、今後の参考となる報告でした。なお質疑・討論の要旨は次のとおりです。調布支部「群会



支部経験報告をする府中国立の仲間

問・意見がありました。窪田副委員長のまとめの後、組織分科会議案は原案どおり拍手で承認されました。

議長オルク、事業所版群オルクについての考え方を教えてほしい。執行部答弁「群会議の本人参加率は全都で約4割。群機能の強化や活性化をはかるためにはまず群に行き実態を知るところからはじめることが大切。先進支部にも学び提起しました。事業所群オルクは事業所に組合の活動を伝えることで事業所の活性化をめざします。荒川支部「事業所対策委員会の活動や選出方法について具体的な教えてほしい」。執行部答弁「委員が分会と事業所を結ぶ世話役的な働きで対策をすすめていきます。他に板橋、中野、府中国立、豊島支部から貴重な質問・意見がありました。窪田副委員長のまとめの後、組織分科会議案は原案どおり拍手で承認されました。

# 労働対策分科会

議長：佐藤 忍 (目黒)  
// 柴崎 憲一 (西東京)  
書記：宮内 竜平 (西東京)

## 判決の前進面を確認 安全大会、石綿シンポ報告も



労働対策分科会で高裁判決の報告をする中野弁護士 (前列左から3人目)

野支部から、「泉南アスベスト最高裁判決を生かした訴訟について」、墨田支部より「平日昼間開催の支部安全大会」、渋谷支部より「アスベ



柴崎議長

野支部から、「泉南アスベスト最高裁判決を生かした訴訟について」、墨田支部より「平日昼間開催の支部安全大会」、渋谷支部より「アスベ

話をしている中で、進捗状況を部会等でお知らせしていく。監督署に対しては、労働局を通じて要請していくと答弁しました。☆アスベスト訴訟については、この先の展望について教えてほしいとの質問に対し、中野弁護士より、国は上告する見通し、最高裁は地方での4つの判決を待って、統一の判断をする。来年度内には最高裁の判断が見込まれると答えました。

## 専門部の役割重要に CCUSは組合のリードで



佐藤議長

本部役員3人、来賓4人の合計53人でした。  
議長・書記の選出後、渡辺部長より「今こそ技術対策部の役割が重要な時」、窪田副委員長(理事長)より「6千人を超える多くの受講者となつたことへのお礼と、しっかりとした裏付けを持って仕事を

りとした裏付けを持って仕事を... 運動強化を」、小林学校長より「23期生の入校が25人になったことのお礼、高校新卒者・未経験者の入校が多くなっている中でカリキュラム変更の検討をしていること、施設移転の協力」などの(他に群馬建築業組合連合会、建設埼玉、東京地評、人見顧問)挨拶があり、役員より議案提案とキャリアアップシステムの特別報告をしました。

その後、「カレッジ生確保の取り組み・清瀬久留米」「分会開催の資格講習・西多摩」「中学生の職場体験受入・練馬」「若手の活躍できる技術対策部・板橋」の支部活動報告があり、近藤書記次長が分科会



技術対策分科会で質問する荒川の仲間

# 技術対策分科会

議長：佐藤眞理子 (調布)  
// 佐藤 里志 (渋谷)  
書記：山崎 貴博 (渋谷)

足場特別教育で支部講師団養成と支部開催講習が大きく増えたこと、青年技能競技大会・技能五輪大会で金賞・銀賞の受賞、東京都主催イベント(匠の技・モクコレ)への参加などの経過報告、高卒者の建設業への就職者が減少、3年以内の離職率が5割弱になっているが、技能検定合格

その後、「カレッジ生確保の取り組み・清瀬久留米」「分会開催の資格講習・西多摩」「中学生の職場体験受入・練馬」「若手の活躍できる技術対策部・板橋」の支部活動報告があり、近藤書記次長が分科会